

<p>【学校教育目標】</p> <p>夢の実現に向け、基本を身に付け、 友だちと共に元気に学ぶ児童の育成</p>

<p>【本年度の重点目標】</p> <p>－ 学校経営 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 課題解決に向けた各種研修の充実と不祥事防止に向けた研修の工夫 ○ 取組の有効化に向けた具体の提示と計画的実施並びに学力向上プランの日常化 ○ 行事等との関連の明確化と各種連携の強化 	<p>－ 教育指導 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ めあてに向かって意欲的に取り組む児童の育成 ○ 自分から誰にでもはっきりとしたあいさつができる児童の育成 ○ 望ましい生活習慣と学校に居場所を持てる児童の育成
---	---

領域	項目	評価指標	自己評価	学校関係者評価	学校関係者評価を踏まえた改善策
組織運営	学校経営全般	「目指す児童像の具現化に向けて、校務分掌が適切に機能している。」 【結果】教員AB評価…97% (昨年度比+8P)	4	コロナ禍の中、学期ごと評価・改善を行うのは例年より困難である。	年度当初に、コロナ禍に対応する視点を取り入れた各部・各係の役割分担の共通理解を図り、学期ごとに評価・改善を行う。
		「校務分掌組織において、各分掌部会内の係が内部で連携し、協働体制で部会の取組を行っている。」 【結果】教員AB評価…85% (昨年度比+3P)	4	適正に評価されている。	定期的に会議を設定し計画的な運営ができる環境を維持していくためにも、短期的及び中・長期的な見通しをもって日程調整を行う。
		「会議等の運営状況は、適切である。」 【結果】教員AB評価…68% (昨年度比-8P)	3	学校の会議の運営状況は、分かりにくいところがあるが、会議は効率よく進めることが大切だと思う。	毎月1回開く校務分掌部会や各種委員会の情報を、毎週月曜日に開く同学年部会議で確実に伝達できるようにする。また、運営委員会や職員会議での提案内容を焦点化する。
	総合所見	3つの評価指標の教員AB評価が、昨年度と比較すると上昇している。これは、会議の時間確保や内容のスリム化が成果として表れてきたと考える。来年度も、見通しをもった打合せ、連絡・調整に重点を置いて進めていく。			

教育課程・学習指導	基本を身に付け、大事にする子	「一人ひとりが分かる喜びを味わい、楽しい授業づくりを進めている。」 【結果】教員A B評価…76%（昨年度比-10P） 保護者A B評価…79%、児童A B評価…84%	3	学力が未定着の子どもたちに「できる」という喜びを味わってもらえる様な指導をお願いしたい。 コロナ禍であり、個々の情報収集が大変であると思う。	まず、課題に対し、児童が「できそうだ。」と思わせる指導を行う。次に、「できたこと。」を交流し、全体のものとする。そして、「何ができたか。」をしっかりと振り返る授業を行う。
		「国語・算数において、振り返り活動を毎時間位置付け、児童の学びを見取っている。」 【結果】教員A B評価…62%（昨年度比-13P） 保護者A B評価…65%	3	振り返りの活動を確実にしてもらいたい。	一単位時間（45分）のねらいを明確にして授業づくりに努める。また、確実に振り返りの活動を位置づける（残り5分間）。
		「家庭学習の習慣が身に付くように、日常的に指導している。」 【結果】教員A B評価…91%（-5P） 保護者A B評価…70%、児童A B評価…79%	3	あまり見受けられない。	一単位時間（45分）のねらいを明確にして授業づくりに努める。また、確実に振り返りの活動を位置づける（残り5分間）。
		総合視 教員は、児童に「分かってほしい」「できてほしい。」という思いで指導を行っている。しかし、児童の実態は様々であり、その実態に応じた授業づくりが重要である。また、家庭学習の習慣化については、これまでの取組を今後も着実に進めていくとともに、固定化している家庭学習の未定着の児童への支援の仕方を、さらに、考えていく必要がある。			
	じっくり考え、表現できる子	「いじめ早期発見アンケートをもとに、いじめのない学級づくりを行っている。」 【結果】教員A B評価…100%（昨年度比+4P） 保護者A B評価…88%、児童A B評価…78%	4	適正に評価されている。	教員の意識が高くなれば、いじめの認知は増えてくる。このことを、年度当初に、全職員で共通理解を図る。また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に全力で取り組むことの共通理解を図る。
		自分の考えをノートやプリントに書く場面や交流の場面など言語活動を取り入れ、児童の思考力・判断力・表現力の育成に努めている。」 【結果】教員A B評価…74%（昨年度比-8P） 保護者A B評価…75%、児童A B評価…78%	3	適正に評価されている。	一単位時間（45分）の授業計画を立てて授業の臨むことの共通実践を進める。
		「時と場に応じた正しい言葉づかいができるように指導している。」 【結果】教員A B評価…76%（+5P） 保護者A B評価…71%、児童A B評価…77%	3	家庭でも行うようにする。 あいさつはよくなってきている。	継続的な指導を行うとともに、言葉づかいのよさの称賛活動を行う。また、定期的な振り返りも行う。
	総合視 「いじめのない学級・学校づくり」については、一定の評価が得られているが、「正しい言葉遣い」については、課題が残る。まずは、教員の言語環境を整えることを意識しながら、日々の授業を中心に、日常の細やかな指導の積み重ねや称賛活動を大切にしていく。				

元気でたくましい子供	<p>「授業やテストで難しい問題があっても、自分の考えをノートやプリントに書くよう指導している。」</p> <p>【結果】 教員 A B 評価…82% (昨年度比-3P) 保護者 A B 評価…68%、児童 A B 評価 87%</p>	4	難しい問題=できないになっているように感じる。	一単位時間内 (45 分)、特に、児童に考えを作らせる場面と振り返りの場面に位置付けるよう徹底を図る。
	<p>「回数や時間など目標を設定し、自己の体力的課題の克服を意識した体育科の授業づくりを行っている。」</p> <p>【結果】 教員 A B 評価…59% (昨年度比-27P) 保護者 A B 評価…81%</p>	3	学校建設をしているため、中々困難とは思う。学校内だけでなく、他の施設が借りられるようにすることも目を向けてほしい。	前年度の体力テストの結果 (体力の実態) を学年間で共有する。その実態を踏まえて、体育科の授業づくりを行う。また、運動の場の確保については、中学校の運動場の活用を計画的に進める。
	<p>「学級活動で自分たちで目標を設定して取り組み、達成感を味わう活動を行っている。」</p> <p>【結果】 教員 A B 評価…74% (昨年度比-5P) 保護 A B 者評価…89%、児童 A B 評価…79%</p>	3	「鍛えよう！」の部分を子どもたちが楽しめようにしてほしい。	本県の「鍛えよう！ほめよう！プロジェクト」の取組を柱に、取り組みを焦点化し共通理解を図りながら進めていく。
	<p>総合所見</p> <p>すぐに諦めるのではなく、心の耐性を徐々に身に付けさせていくことの共通理解を図る。特に、目標をもたせながら、学習や取組を進めるとともに、必ず振り返りの場 (称賛活動) の位置付けをポイントとする。</p>			
生徒指導・保健安全管理	<p>学習規律の確立など、規範意識の醸成に努めている。」</p> <p>【結果】 教員 A B 評価…91% (昨年度比-5P)</p>	4	学校建設中のため、環境の変化があり、その中で決まったことを確実に指導することはこんな思うが、先生方の力添えを感じる。	教員の意識のずれがないようにするためにも、年度当初、学期末等に確実に確認を行う。また、児童の様子から終礼等で、日常的な確認も行う。
	<p>「生徒指導に取り組む体制が、整備されている。」</p> <p>【結果】 教員 A B 評価…91% (昨年度比+5P)</p>	4	「報・連・相」体制の確立が必要である。	担任→担当→管理職、生徒指導委員会の開催 (情報共有) の流れを確立する。
	<p>「保護者や地域社会、関係機関などとの連携協力ができるよう努めている。」</p> <p>【結果】 教員 A B 評価…91% (+5P)</p>	4	コロナ禍の中、行事がほぼなく、保護者や地域との連携がもう少しできるようになればと思う。 継続的に模索していくことが大切だと思う。 児童一人一人の健康面に目を配られていることがよく分かる。	コロナ禍であっても、どのような連携強化ができるのか継続的に模索していく。
	<p>総合所見</p> <p>教員の A B 評価が、3つの評価指標の全てで 90% を上回り、その成果を実感している。引き続き、現在の体制を維持し、コロナ禍であっても、保護者や地域社会・関係機関と連携しながら、生徒指導の充実を図りたい。</p>			

保健・安全管理		「定期的に安全点検を行い、安全管理に努めている。」 【結果】教員A B評価…100%（昨年度比+9P）	4	適正に評価されている。	来年度も、日常の安全点検や報告、改修や未改修等の確認を確実にやっていく。
		「児童の安全確保や事故の未然防止に積極的に努めている。」 【結果】教員A B評価…100%（昨年度比+4P）	4	健康・安全管理があればこそ教育だと思う。	※来年度も継続 日常の安全点検や報告、改修や未改修等の確認を確実にやっていく。
	総合所見	教員のA B評価が、2つの評価指標で100%であり、大きな成果を実感している。引き続き現在の体制を維持し、全職員で児童の保健・安全管理の充実を図る。			
研修 主題 研修 ・ 権 誼 教 育		「主題研修が計画的に進められ、授業改善に努めている。」 【結果】教員A B評価…94%（昨年度比-2P）	4	適正に評価されている。	来年度の研究においては、新たな研究主題を設定し、実践を進める。
		「人権・同和教育が計画的に進み、日々の児童の教育にいかすことができている。」 【結果】教員A B評価…91%（昨年度比+5P）	4	プリント一つ一つにも先生方のコメントがあり、居場所づくりもしっかりされていると思う。	本校では様々な課題はあるが、実態に応じた取組を継続、また、新たに構築していく必要がある。特に、一人一人の児童の居場所づくりの基盤に重点をおく。
	総合所見	研究主任と人権・同和教育担当教員を中心に、取組が進められ、本年度も教員のA B評価が80%を超えることができた。これらの取組を継続し、授業の改善と児童の豊かな心の育成を図っていきたい。			
連携・教育環境	その他	「学年・学級だより等で子どもの様子を知らせ、連携を深めている。」 【結果】教員A B評価…94%（昨年度比-2P） 保護者A B評価…76%	4	学校の様子が分からない。年に1回でも情報を出し、保護者の不安を取り除くようにしていただきたい。（特に、新1年生の保護者など） 学校だよりの発行は継続、学校の様子を分かりたい。	毎週発行する学年・学級だより、毎月発行する学校だよりは継続する。ホームページの更新については、工夫（より学校の様子が分かる内容）が必要である。
		「学習・生活環境の整備に努めている。」 【結果】教員A B評価…91%（昨年度比+2P） 保護者A B評価…93%	4	例年取り組んでいたが、感謝しております。 環境整備は大切。地域力を活用すればよいと思う。できればその活動にも参加したい。	年度当初に、常に、子どもの側からみた環境（物的・人的）整備に目が向くよう共通理解を図る。
	総合所見	環境整備は保護者からの高い評価を得ることができた。本年度も学校に来る機会は少なかつたものの、迎えや用事等で学校に来られた時の環境をもとに判断していただいたと考える。今後も、保護者や地域の皆様とのつながりを大切にするための広報活動と、子どもたちの日々の学習環境と生活環境の整備を充実させていく。			